様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2017
課題番号：２６８７０７６６

研究課題名（和文）学校教育における「ユーモア能力」の育成のためのカリキュラム・教材開発

研究課題名（英文）Development of a curriculum and teaching materials for 'humor ability' training in school education.

研究代表者
青砥　弘幸（AOTO, HIROYUKI）

佛教大学・教育学部・講師

研究者番号：２０６３２０３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校教育における子どもたちの「ユーモア能力」を育成するための指導のありかたについて検討するものである。「ユーモア能力」に関する国内外の知見についての文献研究、小学生・中学生・高校生・大学生及び、現職教員を対象とした質問紙調査などを実施し、研究全体を通して以下の成果を得た。
１）現代の子どもたちが笑いやユーモアについてどのような実態をもっているのかを明らかにしたこと
２）「ユーモア能力」の育成のための方向性（指導事項及び教材など）について具体的な提案を行ったこと

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to consider the way to develop children's “Humor ability” in school education. We reviewed domestically and overseas literature study, and conducted questionnaire surveys for elementary/junior/high/university students and teachers. The following points were obtained as a result. 1.It revealed what kind of conditions current children have about humor and laughter. 2.It suggested some specific ideas (such as goals and materials) to develop “Humor ability”.

研究分野：笑い学、国語科教育

キーワード：ユーモア　笑い　教育

１．研究開始当初の背景

近年、「ユーモア」や「笑い」に関する学術的関心が高まっている。学際的な研究成果の充実によって、人間関係形成や肉体的心理的な健康増進など、それらが我々の生活の中で非常に重要な価値や機能をもつものであることが明らかとなっている。また同時に、いじめやＳＮＳ上でのトラブルなど社会的な問題と「ユーモア」や「笑い」とのつながりなども徐々に見えてきた。これらの研究知見を踏まえるならば、生活の中でどのように「ユーモア」や「笑い」と関わるかという問題は、その人生や生活の質とも大きく関わるものであると言える。逆に言えば、「ユーモア」や「笑い」を生活の中で適切かつ効果的に活用したり、適切に判断したりすることができる資質や能力、いわば「ユーモア能力」の向上は非常に重要な「生きる力」となると言うこともできるであろう。

教育学の文脈においても、これまでにも多くの教育者や実践者が、子どもたちに「ユーモア」や「笑い」に関連する資質や能力の育成することの価値や重要性について言及してきた。しかしながら、この「ユーモア能力」に関する具体的な目標や方法などについて体系的な議論が展開されてきたとはいいがたい現状にある。

２．研究の目的

本研究の目的は以下の３点である。

１）「ユーモア能力」の育成に関する議論の基礎として、関連する先行研究の成果を整理すること
２）現代の子どもたちの「ユーモア能力」について、その実態を明らかにすること
３）1,2 よりその育成の方向性を措定し、具体的な目標や指導事項、方法、教材などについて具体的な提案を行うこと

３．研究の方法

まず「ユーモア能力」の育成に関連すると思われる国内外の先行研究を整理し、「ユーモア」や「笑い」が我々の生活の中でもつ意味や機能、その実態などについて、肯定的側面・否定的側面の両面から検討した。その知見を踏まえ、質問紙を作成し、小・中・高校・大学生（約 1500 名）に実施することで、その実態について調査した。同時に、現職教員に対する質問紙調査も実施することでより多角的にその実態に迫るよう試みた。これらの知見を踏まえ、学校教育における「ユーモア能力」育成の方向性（目標・指導事項・方法・教材など）について検討していく。

４．研究成果

学校教育において育成が目指される「ユーモア能力」とは「ユーモア的なものの見方や考え方を働かせ、生活の中で適切かつ効果的にユーモアや笑いを活用し、より豊かに生きることができる力」である。そしてその育成を実現していくためには、１）ユーモアや笑いの項知的な意味や機能の恩恵を享受したり、活用したりすることで生活を豊かなものにする力を育てること、２）ユーモアや笑いの意味や機能に起因している様々な問題やトラブルに対して、よりよく対応したりコントロールしたりする力を育てること、という２つの側面からのアプローチが必要であることが明らかとなった。

１）の基礎的議論となる、我々の生活の改善や向上につながる「ユーモア」の肯定的意味や機能、および子どもの実態を踏まえた指導事項として以下の内容が挙げられる。

楽しく生きるための方略としてのユーモアの活用
○ユーモアやユーモア的なものの見方や考え方に触れ、その面白さやよさを感じること ○自身の生活の中に様々なユーモアを取り込んだり、すでにあるユーモアに気づきそれを楽しんだりすること

コミュニケーション方略としてのユーモアの活用
○社会的なコミュニケーションの中でユーモアのもつ意味や機能について理解を深めること ○具体的な場面の中で、相手や状況などを踏まえてユーモアを判断・活用し、コミュニケーションの質を向上させること

自他の心身の健康増進のための方略としてのユーモアの活用
○ユーモアと心身の健康との関連についての理解を深めること ○具体的な場面の中で、相手や状況などを踏まえて、支援的な目的に基づいたユーモアの判断・活用をすること

文化的な充実のための方略としてのユーモアの活用
○通時的、共時的に多様な内容、形態のユーモアに触れ、その興味や関心を広げること

一方で、現代の子どもの抱える「ユーモア」に関する問題や課題を踏まえた、指導事項については以下のような観点が挙げられる。これは２）の議論の出発点となるものであると言える。

他者を攻撃するユーモアを好む傾向にあること
○自分のユーモアに関する嗜好や実態を振り返ること ○ユーモアのもつ攻撃性を理解し、そのようなユーモアのみが蔓延する集団の問題について仲間と理解を深めること ○攻撃的なものだけでなく様々な質のユー

モアに触れ、ユーモア観を多様化させること。特に自他を支えたり励ましたりするような「支援的なユーモア」にも親しみを深めること

ユーモアの内容についての適切さを判断する力が不足していること
○自分が生活、社会の中のなかで触れるユーモアや笑いの内容や表現の質を振り返り、その特徴や問題点について考えること ○状況の中で、特定の笑いやユーモアの目的や効果と、内容や表現の質との適切さについて考えること ○ユーモアや笑いについては、一人一人の感じ方に違いがあることに気が付くこと

状況とユーモアとの関係を適切に判断する力が不足していること
○状況の中で、特定のユーモアの目的や効果と、その場の社会的性質との適切さについて考えること ○状況の中で、特定のユーモアを発信することが、どのような意味を持ったり、影響をもたらすのかということについて想像を広げたり、考えたりすること

真剣さ・誠実さから逃避するためにユーモアを用いることがあること
○真剣に、誠実に向き合うべき事象・事柄とはどのようなものなのかについて考えを深め、そのような事柄からユーモアや笑いによって逃避するような姿勢について自分の考えをもつこと

仲間との関わりの中で「おもしろければ何をしてもよい」という雰囲気があること
○ジョーキング関係とユーモアとの関係について理解を深めること ○いじるーいじられるに代表されるような、身近なジョーキング関係を振り返り，状況に応じてその関係を逸脱することの必要性について仲間と考えること

仲間との関わりの中で「おもしろいことをしなければならない」という雰囲気があること
○ユーモアは集団の関係性を強化する一方で、それが自分たちの集団内での言動を縛りうるものともないないかどうかについて仲間と考えること ○「キャラ」や「ノリ」などの身近なコミュニケーションモードを振り返り、その危険性や状況に応じてその関係を逸脱することの必要性について仲間と考えること

他者を排除するようなユーモアを表現することがあること
○ユーモアは、排他機能をもち、外部に対する攻撃性をもつこと、自分たちが無自覚に人を傷つけている危険性があることを理解すること ○ユーモアの感性は人それぞれであることに気が付き、自分たちとそれを共有していない相手を受け入れることの大切さに気が付くこと

ユーモアに対して過敏に反応しすぎることがあること
○ユーモアを発信した相手の意図や目的をくみ取り、ユーモアを共有したり受容しようとしたりする姿勢をもつこと

このような指導事項を指導していく上で、例えば次のような言語活動が想定される。

○家族や友達、地域の方など、いろいろな人に「好きなユーモアとその理由」について取材し、スピーチ形式で、全体で交流を行う活動（小学校高学年）。
○具体的な事例を参考にしながら「ユーモア」の心理的支援効果を理解し、実際に悩みを抱えている人（具体的な相手を設定）を元気づけるためのメッセージカードを考え、作成する活動（中学生）
○様々な失言の事例を集め、「その人がその「ユーモア」を発信した意図」「なぜそれが失言となってしまったのか（誰に、なぜ不快感を与えてしまったのか）」「どのような「ユーモア」であれば失言とはならなかったのか」などの観点から分析し、報告しあう活動（高等学校）

本研究を通して「ユーモア能力」育成のための方向性および具体的な指導事項及び学習活動の構想を提案した。今後はこれらをベースとしながら、より精緻に検討を進めていくとともに、実践的観点からも考察を深めていく必要があるだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 青砥弘幸，子どもの「ユーモア能力」育成のための指導事項の検討,笑い学研究,査読有，Vol.25,2018，pp56-71 （印刷中）

② 青砥弘幸,「教室ユーモア」研究と国語科教育の接点,月刊国語教育研究,査読無, No.522, 2018, pp42-49

③ 青砥弘幸,現代の若者の「笑い」に関する実態とその課題,笑い学研究,査読有,Vol.22,2015, pp.47-61
https://doi.org/10.18991/warai.22.0_47

〔学会発表〕（計 2 件）

① 青砥弘幸,「子どもの「ユーモア能力」育成のための方法・教材の検討」日本笑い学会,2017
② 青砥弘幸,「子どものユーモア能力育成における指導事項の検討」日本笑い学会,2016

〔その他〕
① 日本笑い学会第 242 回オープン講座講師「今日の子ども・若者とユーモア」2017/02
② 滋賀県退職教職員互助会公開講演会講師「現代の子どもと笑い」　2016/11

６．研究組織
(1)研究代表者
青砥弘幸（AOTO,Hiroyuki）
佛教大学・教育学部・講師
研究者番号：20632037